

おるご〜る

No.18
2013
Spring



和光市男女共同参画推進係「わこうさん」

あなたの心のふたを開けて、思いを解き放ち、その思いを自分らしく奏でてほしい…。そんな願いから「おるご〜る」と名づけられました。



男性中心の医療から、女性を配慮した医療へー
日本初の公認女性医師 荻野吟子

女性患者に貢献した 荻野 吟子(1851-1913)

荻野吟子は1851(嘉永4)年、今の埼玉県熊谷市に生まれました。結婚してまもなく夫から性病をうつされ、症状が悪化したことから、離婚し治療を受けます。当時、珍しかった西洋医学で男性医師による治療を受けるのは、その時代の女性たちにとっては特に羞恥心という観点からひどく辛いものでした。吟子は同じ状況に苦しむ女性のためには女性の医師が必要と痛感し、自らが医師になろうと固く決意しました。

吟子は女子禁制の私立医学校に特別に入学し、男子学生たちからの迫害にも耐え優秀な成績で卒業しますが、女性という理由で医師開業試験の受験許可がありませんでした。懸命の訴えの末、34歳で1887(明治18)年、試験に合格。医院を開業し、女性患者の治療にあたりました。吟子は、男性中心の医療の場に女性の視点を持ち込んだ不屈の開拓者といえます。

大事にしよう、私のからだ

～女と男の新・医学～

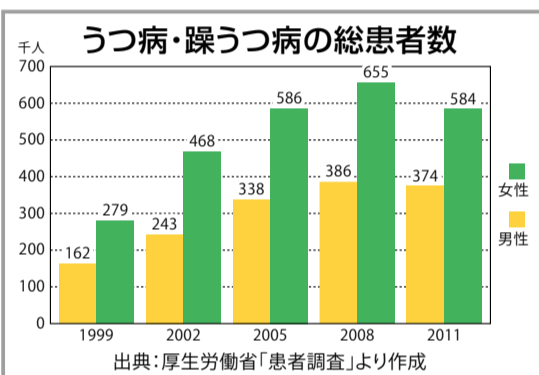
あなたのこころや体に不調はありませんか？

男女で異なる役割期待やライフスタイル、さまざまな社会問題も

私たちの健康に影響を及ぼしています。

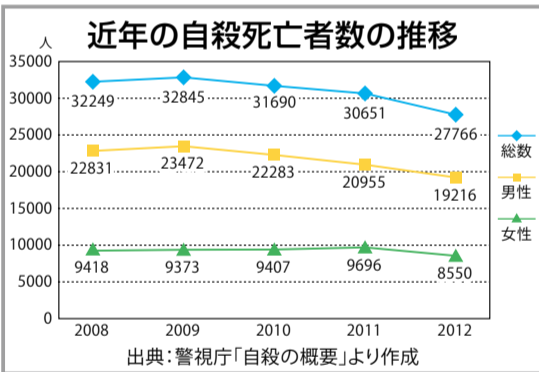
こころ、体、性に関する健康や医療を

ジェンダー(社会的性差)の視点から考えてみました。



女性は、男性の約2倍うつ病になりやすいと言われています。はつきりした原因は不明ですが、女性はホルモン分泌の変化が大きいため、出産前後や更年期にうつ病を発症しやすいのです。また、家庭内の役割の強調、不安定な経済力、容姿偏重の女性観、家事と仕事の二者択一または両立、人間関係の調整役割など、女性は男性に比べてより複雑で多様な問題に直面することが多いことなども要因の一つと言われています。

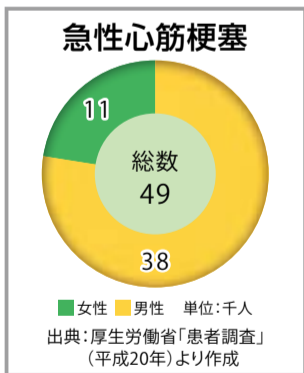
女性に多いうつ



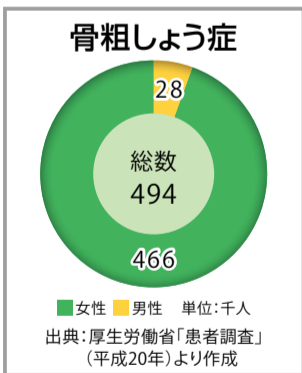
平成24年の年間自殺者数は2万7,766人、深刻な数です。男性の自殺率は女性の約2倍です。自殺の原因・動機は性別でみると、大きく異なり、女性では全年齢を通して健康問題の占める割合が多い一方、男性は経済・生活問題、勤務問題が格段に多く、「男は仕事」という男性役割との関連を見出せます。また、「弱音を吐くな」という「男らしさ」の意識が男性を孤立させ、一人で問題を解決する傾向に追い込むという見方もあります。

男性に高い自殺率

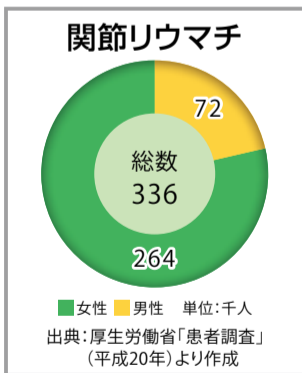
女性ホルモンの抑制が動脈硬化の進展を抑制しています。男性では20代から脳梗塞や心筋梗塞の罹患が始まり、65歳未満では男女の死亡率に5倍の差があります。



女性はもとも男性に比べて骨量が少なく、閉経後に女性ホルモン分泌が急激に減ることで骨量が減少します。

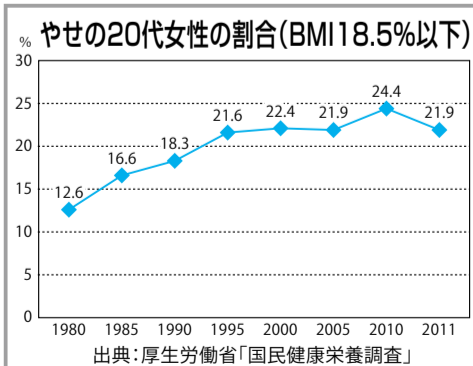


免疫の異常がもとになっている病気は、女性ホルモンの関係すると言われています。自分自身の身体を異物と間違えて免疫反応を起こす抗体を、女性ホルモンは作りやすいのです。



男女によってかかりやすい病気は異なります。次の3つのグラフは女性に多い病気・男性に多い病気を表しています。

病気と男女差



20代女性の平均体重は毎年低くなり、標準体重のマイナス10%の一手前までできています。摂食障害の原因については諸説ありますが、全体として考えると、昨今の患者数の増加には、こうした社会的影響も大きいと考えられます。

摂食障害には、食べ物を受け付けなくなり体重が減っていく、いわゆる拒食症と、いくら食べても満足感が得られず暴飲暴食をする過食症の2種類があります。摂食障害は若い女性に多く見られる病気で、患者の90%以上が女性と報告されています。過度なダイエットやストレスが原因の一つと言われており、患者数は1980年からの20年間に約10倍増加しました。その背景として、「やせていることが女性の理想像」といった美意識の浸透、スリムな体型をもてはやす社会、文化の影響が挙げられます。メディアは、やせた女性は美しい、やせればよいことがある、といった広告を毎日のように送り続けています。

やせと摂食障害



次のページへ 性差をふまえた医療とは？ 女性外来の第一人者、天野恵子さんに聞きました。



女性外来の第一人者、 天野恵子さん(新座市静風荘病院医師) 性差医療を語る

まず知ってほしいこと 性差医療とは

健康にも、性差が存在します。例えば、男性のコレステロール値の上昇は食生活の乱れや飲酒・肥満の有無が主な原因であるのに対して、更年期の女性の場合、閉経等の体の変化によりコレステロール値は自然と上昇します。

また、女性と男性の喫煙者の間では、女性の方が喫煙の健康への影響は顕著で重大なのです。

年齢はもちろん、性別が異なれば、治療法も大きく異なります。特に更年期では生活習慣から見直す事が必要だと、天野さんは言います。

しかし、これまでの医療では症状ばかりに注目してしまい、こうした性差を意識した治療がなされてきませんでした。

そこで、女性外来や男性外来といった、なるべく性別や各人に合ったオーダーメイド治療を行う外来が創設されるようになってきたのです。

【プロフィール】

1967年、東京大学医学部卒業。性差医療研究・実践の第一人者で、NPO法人性差医療ネットワークや性差医療・医学研究会(現・日本性差医学・医療学会)の創設をリード。著書に、『行き場に悩むあなたの女性外来』などがある。

女性外来ができた

女性外来とは、性差(男女の差)がもたらす疾患や、病態の差を念頭に置き、女性患者のための治療を行う医療機関又は診療科のことです。

女性外来の背景には、女性と男性との間で治療に対する大きな差異はないと考えるべきで、これまでの誤解に対する反省があります。臨床研究においても、分析結果に誤差を生じさせる妊産婦や、妊娠の可能性のある女性、更年期の女性などは研究対象から除外され、主に男性のデータ分析に基づいて医療が行われてきました。

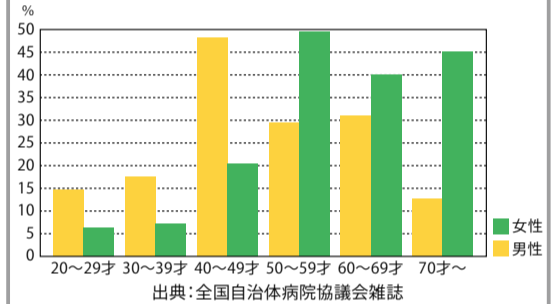
こうした男性中心の医療に警鐘を鳴らしているのが、女性外来です。

女性外来は2001年5月に鹿児島大学で、同年10月に千葉県東金病院で開設されたのをきっかけに各地で広まり、2006年までに1356施設に達しました。

託児付きの
外来も
あります。



高コレステロール血症の発症は50代で男女が逆転



男性のための外来

女性外来があるのと同じように、男性外来もあります。

男性外来にはとてもたくさんの種類があります。頭髪に関する悩み、男性不妊の悩み等です。しかし、男性外来の数は女性外来に比べ少ないのが現状です。

その理由は、「男性医師には話づらい」という話を男性の患者さんから聞いたということと、また、男性の側にも誰かに相談しようという気持ちがあまりないからではないか、ということでした。

男性にも更年期があり、身体や精神に変調が訪れます。しかし、男性は身体的な不調は無視してしまつことが多く、精神的な不調は精神科には行きづらいうという理由で悶々としてしまつてしまつたり、処置が遅れてしまつことがあつたと天野さんは言います。

興味と知識で 自分の体を 守ろう!



自分の体を大切に

病気のことは病院へ行けばいいと安易に考えず、「どうして病気になるのか」をもっと知ってほしいと天野さんは言います。

人はそれぞれに体内時計を持つていますが、これが乱れるだけでも体調に多くの悪影響が出ます。

まずは、規則正しい生活習慣を心がけ、体に過度な負担をかけることがないこと。そして病気になる原因を知ることが大切です。

また、医学用語の基礎知識を備えることも重要です。例えば、医学で「女性ホルモン」を指す言葉は「エストロゲン」のことを指していることが多いです。こうした自分の体に関係する医学用語の知識を得ることで、自身の体調管理への興味・関心も高まります。

あなたの更年期指数をチェックしてみましょう

強:我慢できない 中:なんとか我慢できる 弱:普通に我慢できる

症状	強	中	弱	無
① 顔がほてる	10	6	3	0
② 汗をかきやすい	10	6	3	0
③ 腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0
④ 息切れ、動悸がする	12	8	4	0
⑤ 寝つきが悪い、または眠りが浅い	14	9	5	0
⑥ 怒りやすく、イライラしやすい	12	8	4	0
⑦ くよくよしたり、憂うつになる	7	5	3	0
⑧ 頭痛、めまい、吐き気がよくある	10	5	3	0
⑨ 疲れやすい	10	4	2	0
⑩ 肩こり、腰痛、手足の痛みがある	10	5	3	0
⑪ 膣や尿道がヒリヒリする、性交痛がある	10	6	3	0
⑫ トイレが近い、尿もれがある	10	6	3	0
合計				

0~25	じょうずに更年期を過ごしています。
26~50	食事や運動などに注意をはらって、無理のない生活を心がけましょう。
51~70	婦人科や更年期外来を受診しましょう。
71~90	半年以上の計画的な治療が必要です。
91以上	各科の精密検査を受けてください。

出典:『更年期障害これで安心 つらい症状と不安を解消! (ホーム・メディカ安心ガイド)』小学館より作成

冷えに「ブーン」注意

体の不調を訴える女性に対し、天野さんがよく用いている治療法の一つに、「和温療法」があります。これは60℃の遠赤外線低温サウナで15分間体を温め、その後さらに温めた布団で30分間保温することで症状を緩和する、または治療させるという、体に優しい治療法です。

鹿児島大学の鄭忠和教授によって開発された方法で、苦痛や副作用がほとんどないのが特徴です。

体が冷えると、全身で血行が滞り、様々な病気を引き起こしてしまいます。

「なんだか寒い…」そう思ったときは、お風呂に入ったり、厚着をしたりと、体を温めることが大切なのです。

天野さん自身、更年期障害に苦しんでいたのですが、お風呂に入っている時だけは様々な症状が緩和されていたと言います。

ただし、どんな症状でも「温めれば大丈夫!」ということではありませぬ。もし病気があった場合、温度によっては体に更なる負担をかけてしまうこともあります。病気がならないのが一番ですが、具合が悪い時には病院に行ってください。

わおんっ

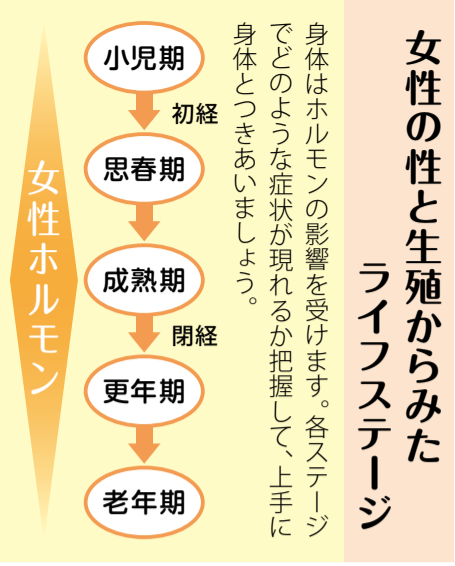




リプロって何?

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
Reproductive Health and Rights
(性と生殖に関する健康・権利)

人が健康的な人生を送るためには、ライフステージに応じた身体への配慮が必要です。とりわけ女性は、思春期、成熟期、更年期にかけてホルモンの変化が大きく、段階に沿った対応が望まれます。一方、女性の健康を害する性感染症、望まない妊娠、性暴力被害などの問題や事件が後を絶ちません。それには、男性中心の社会や性意識も関連しています。あなたの・わたしの“リプロダクティブ・ヘルス/ライツ”を一緒に考えてみませんか?



リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (Reproductive Health and Rights) とは

「性と生殖に関する健康・権利」と訳されます。性と生殖に関する健康と、その健康が生涯にわたってすべての個人に保障され、人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、差別・強迫、暴力を受けることなく性と生殖に関する決定を自由に行える権利のことを言います。

男性にも必要ですが、特に性と生殖に関して社会的圧力や強制を受けやすい女性にとって重要な概念です。

思春期保健、家族計画、不妊、人工授精、代理出産、人工妊娠中絶、少子化、買売春、HIV/エイズを含む性感染症、性暴力、ジェンダーに基づく暴力など、さまざまな課題を含みます。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方は、1994年に、カイロで開かれた国際人口開発会議において提唱され、その後の「男女共同参画」や「男女の健康のあり方」へ大きな影響を与えました。

カイロ会議で提唱された「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の4つの基本

- (1) 女性自らが妊孕性(妊娠する能力)を調節できること
- (2) すべての女性において安全な妊娠と出産が享受できること
- (3) すべての新生児が健全な小児期を享受できること
- (4) 性感染症の恐れなしに性的関係が持てること

氾濫する 男性目線の性情報

メディアの発達、インターネットや携帯電話の普及で、性に関する様々な情報が溢れ、誰でも簡単に見聞きできるようになりました。そのほとんどが「男性」を対象に制作、発信されており、女性に対する暴力的な描写、性的虐待の描写を容認する傾向があります。

また、「少々乱暴に振舞ったほうが男らしく、女性は喜ぶ」、「嫌だと言いつつ本当はそう思っていない」など、「女性とは、男性とはこういうものである」という誤った固定観念を刷りこむ情報も少なくありません。多くの人はこうしたメディアから性に関する知識を得ています。溢れる性情報をうのみにせず、正しい知識を持ち、適切な行動をとることが身体を守ることに繋がります。



性暴力を許さない

警察庁の発表によると、平成24年1月から12月までの間で強姦や無理やり触られる強制わいせつなどの犯罪被害件数は認知されているもので8,000件を超えており、被害者のほとんどが女性で、

また全体の半数以上が未成年者です。

DV(ドメスティック・バイオレンス)、セクシャル・ハラスメント、ストーカー行為、痴漢などに加え、子どもや高齢者、障害者に対する性的な虐待や学校内外における性的ないじめなど、性暴力、性犯罪は多様です。

届出のないケースも数多くあり、実際の性被害件数は未知数です。被害に遭うのは決して希なことではありません。身近に潜む危険と認識して対応する必要があります。とりわけ子どもについては大人たちがしっかりと見守り、手を差し伸べ、また、子ども自身も性被害を受けないよう、自己防衛法を伝えていくことも必要でしょう。



人ごとではありません — 現代の性感染症 —

人々の性行動が多様になった現代社会では、性感染症(クラミジア、梅毒、HIV/エイズなど)は、年齢・性別問わず誰でもかかりうる病気です。

症状は様々ですが、いずれも生殖機能に悪影響を及ぼし、不妊症や子宮外妊娠、また最悪の場合死に至る場合もあります。

自覚症状がないものも多く、治療が遅れたり、他へ感染を広げる可能性もあります。性感染症を正しく知り、理解し、予防に努めることが必要です。



わたしの身体はわたしが決める

妊娠・出産は、心身に大きな負担を伴いますが、その負担を引き受けるのは、いうまでもなく、女性です。

「産む・産まない」を自由に決定する権利は、妊娠・出産の当事者である女性にとって、まさしく重要なことです。女性の心身の健康に配慮して、主体的に妊娠・出産を計画することが大切です。そのためには、適切な避妊を行うことです。

もし、妊娠を望まないのに、相手が避妊に協力しないとしたら、それは重大なDVの一つと考え、関係を見直す必要があります。避妊については、産婦人科や市の保健センターなどに相談しましょう。男性本位の性のあり方を見直し、女性が自己主張できること、互いを尊重できる対等な関係を築くことが、性感染症や望まない妊娠の予防につながります。

◆豆知識◆

医療施設等で働いている医師・歯科医師における女性の割合は、いずれも増加傾向にあります。その割合は、依然低いものとなっています。そのため、女性医師・歯科医師も働きやすい環境づくりが望まれます。

女性の医療施設従事医師・同歯科医師の割合の推移(全国)

	平成10年	平成20年
医師	13.9%	18.1%
歯科医師	16.0%	19.9%

※男女共同参画白書(平成23年版)より作成



「多様な性」の理解のために

男？女？…こだわらない？

辻瑞季さんの「性同一性障害」をめぐる軌跡



デニムの衣装でまとめ、髭を蓄えた「いまどきの男子」が、ニコニコしながらインタビュー会場に入ってきた。辻瑞季さん(24歳、埼玉県在住)でした。戸籍上の性別は「女性」。それでも戸籍の表記にこだわらない、「自分は自分」という、そんな辻さんの生い立ちから尋ねました。

「これは話せないうぶだな」と胸の中にとまっていた

自身の「女」としての性別に違和感を持ったのは物心ついた頃で、意識の中で覚えているのは3歳でした。幼稚園の時にはかなり明確で、「他の子とは違うな」と感じ、もしかして「これは話せないことだな」と自分の胸の中にとまっていた。

性同一性障害という言葉を知ったのは、小学生低学年の時です。埼玉医科大学が日本初の公認の性別適合手術(当時は、「性転換手術」)を行ったとのニュースを見て、自分が「そつではないか」と思いました。自分を性同一性障害に当てはめて理解したのは、中学の時です。

究極の選択 —「女装」した中学時代

中学に入る時、究極の選択を迫られました。中学では、セーラー服を着なければいけない。そのことで、はつきり男女に分けられてしまう。相当悩み、迷いました。とりあえず美意識の問題として、「見た目」どちらを選ぶかと

戸籍上の性別変更を認める特例法ができたことで、性同一性障害のことが広まり、当事者にとっても、戸籍の選択肢が増えたことは良かったと思います。ただ、変更を認める要件については、いろいろな意見はあると思います。

この法律が出された当時は、自分も戸籍の変更を考えていましたが、結局、それには至りませんでした。

「性別」は、単なる表記であり「肩書き」に過ぎない。一般的に、「性別」だけではなく、学歴やその他もろもろの「肩書き」に踊らされ、すがってしまっている人たちが多くいますが、このよつな風潮は人々の生き方を窮屈なものにしている要因の一つになっていると思います。

以前は、自分も踊らされていた一人でした。戸籍上の性別変更は、差別や偏見から脱出できる「救いの道」であるように思っていたんです。今は、このままで十分に人として自信を持ち生きていけるので、性別適合手術や戸籍上の性別変更を希望しなくなりました。そのきっかけの一つに、社会学やジェンダーを学んだことがあります。

同級生があっけらかんとしていたので救われた

他人に話すのは、「怖い」と思っていました。嫌悪されるのではないかと。16歳になって初めて、同級生にカミングアウトしました。そのとき、同級生があっけらかんとしていたので、これに救われ、両親に話す気になりました。突然のカミングアウトに、治療のことや健康のことなど、両親の心配は相当でした。

「日常生活の上でこれまでに困ったことは」と聞かれると、いろいろなことがあり過ぎて…ウーン(沈黙)。今は、個人レベルでは、深刻に考える性格ではないので、あまり困ったことはないけれど、他の性同一性障害の仲間にはいろいろあるし、社会の中に困ったことは沢山あります。

以前は、戸籍上の性別変更も考えていた

以前は、戸籍上の性別変更も考えていた

問われたら、一番しつくり来るのは、トランス・ジェンダーだと思います。

性同一性障害の人には、自殺願望を持つ人や、自殺未遂も多いと言いが…

自分の身近にも、昨年1人いました。追いつめられてしまう人の中には、身体への嫌悪感が強い人たちが多くいます。悩みがあったら、早めに信頼できる方面に相談することです。

周囲の人は、悩んでいる人に対して、「特別なことをしてあげる」ということでなく、人としてかわりなく接することです。そして、多様性が認められる社会になってほしい。そうなければたとえ知識がなくても、存在の否定にはつながらないと思います。

当事者の方に言いたいこと

まず、「性別に悩む人々」同士が相手を差別化しているようなケースが見られます。人の趣味や趣向に規則がないのと同じように、人には多様な生き方がある。当事者同士がお互いに多様性を認め合う必要があると思います。

そして、性別適合手術は、性同一性障害の人々が社会で生きるための一つのツール(道具)として認識してほしいということ。表面的な要素ばかりに頼りすぎて、悩まないでほしい。本当に手術が必要な人もつと少ないはず。できるだけ外科的な手術はしない方がいい、というのが自分の考えです。

性のあり方には様々なかたがある

性同一性障害の名称は、「医療」の領域で与えられる疾患名であって、性別に違和感を抱いている人が全て「性同一性障害」とは限りません。性同一性障害という名称だけが広がって困っている人がいるし、その逆に救われたという人もいます。自分としては、「障害」という言葉はラベリング(レッテル貼り)の面もあるので、あまり好きではありません。

相談先は専門機関へ

性別に関する悩みがある場合には、ジェンダー・クリニック(注:関連する専門科・専門医による医療チームのある病院や診療所)に行くことです。

和光市周辺では、埼玉医科大学病院があります。都内にもいくつかの専門クリニックがあります。専門的な機関でないとかえって、混乱する恐れがあるので、十分調べて行ってほしいと思います。



辻さん、ご協力ありがとうございました。

「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」

- (平成15年、最終改正平成23年) 次の要件(一部要約)を満たす場合、戸籍上の性別変更が認められる。
 - 20歳以上であること
 - 現に婚姻をしていないこと
 - 現に未成年の子がいないこと
 - 生殖腺がないか機能しないこと
 - 他の性別に近似する外観を備えていること(認容件数:2,847件。平成23年末口現在。)

多様な性のあり方

「トランス・ジェンダー」生まれた時の性別とは異なる性別を生きる人。生きたいと望む人。またはその状態の総称。このこと自体は、疾患でも障害でもない。

【性同一性障害】自分の身体の性別に違和感をもち、反対の性であることと強く望む状態について、医学上の診断基準に沿って与えられる疾患名。

【同性愛】恋愛相手の性別が同性であるということ。疾患ではない。性同一性障害と同性愛は混同されることがあるが、両者は異なる概念である。

編集後記

●男女共同参画わこうプラン推進委員

- 真の意味の「健康」について、学ぶことができた感じがします。(大河内茂美)
- いろいろなることを学べた大変有意義な1年間でした。(古満亜希子)
- 体は女。でも私の心には性別はない。(寛紀美枝)
- まずは性差への正しい理解を身につける事が重要だと感じました。(大伍将史)
- 知らないことを知ることで『性』に対する考えが深まりました。(木村久美子)
- 1つの物を皆で世に送り出すという、貴重な経験を積めました。(鶴見優華)

●和光市男女共同参画アドバイザー

- 健康・医療のテーマは話題が豊富で、続編を作りたいくらいでした。(西山千恵子・青山学院大学、東京国際大学非常勤講師)

「おるご〜る」は、公募の市民で構成された男女共同参画わこうプラン推進委員が取材や編集を行っています。一緒に楽しく男女共同参画を学んでみませんか? 編集会議の見学もできます。遠慮なくお越しください。「おるご〜る」へのご意見、ご感想やお問い合わせは、人権文化課までご連絡ください。住所:〒351-0192 和光市広沢1-5 電話:048-424-9088 FAX:048-464-1234 メール:a0400@city.wako.lg.jp

